

令和3年度 第2回櫛引地域振興懇談会 (会議録・要旨)

○日 時：令和4年3月18日(金) 午後1時30分から午後4時05分まで

○会 場：櫛引庁舎 第1会議室

○出席者：敬称略

(出席委員) 小林 幸一、 釧持 康光、 若生 実、 安野 良明、 井上 実、
上野 由部、 佐藤 治郎作、 清和 ふみ子、 本間 与一、 宮城 妙、
馬 場 合、 菅原 とり子

(欠席委員) 上野 謙、 佐藤 正幸、 重松 美鈴、

(市側) 企画部地域振興課地域振興専門員 熊田 晃久、企画部政策企画課専門員 佐藤紘司
櫛引庁舎支所長 早坂 進

総務企画課長 菅原 正一、市民福祉課長 前田 郷子、産業建設課長 熊坂 誠

総務企画課課長補佐(兼)地域まちづくり企画調整主査 遠藤 直樹

市民福祉課課長補佐 佐藤 栄一、産業建設課課長補佐 斎藤 秀一郎

総務企画課総務企画専門員 小野寺 敏明、総務企画課嘱託 若生 雅之

一次 第一

1 開 会

2 あいさつ

3 説明・報告

(1) 鶴岡市国土利用計画(第二次)について

(2) 令和4年度櫛引庁舎重点施策について

(3) 櫛引地域デマンド交通の利用状況について

4 協 議

(1) 櫛引地域まちづくり未来事業について

(2) 広域コミュニティ組織の検討について

(3) その他

5 そ の 他

6 閉 会

.....

1 開 会

総務企画課長

ただいまから令和3年度第2回櫛引地域振興懇談会を開会させていただきます。

委員の皆様方にはご多用の中ご出席いただき、誠にありがとうございます。最初に資料の確認でございますが、事前送付させていただいた資料一式(資料1～資料5まで)でございますが、本日、資料をお持ちでない方がいらっしゃいましたら申し出ください。

当日配布の資料として、出席者名簿と席表を両面刷りにしたものと道路改良工事実施予定箇所

図を配布させていただいています。

なお、本日は委員15名のうち12名のご出席をいただいております。また、出席者名簿4番についてですが、現在、出羽商工会櫛引支部代表理事が欠員となっていることから、本日は、委員代理として出羽商工会東部センター長より出席していただいております。

それでは、最初に当懇談会会長であります小林櫛引区長会会長よりご挨拶をお願いします。

2 あいさつ

会長

皆さま、本日は、お忙しい中、ご出席誠にご苦勞様でございます。

鶴岡市における新型コロナウイルス感染症については、中々感染が止まりません。今日も感染者数が41名とのことであります。クラスター重点対策期間中にクラスターが発生し、私たちには市の対策が見えない状態です。感染者数や年齢等については、発表で分かりますが、身近なところでどのような事が起こっているのか私達には届かず心配しているところです。

今年度も新型コロナウイルス感染症に翻弄された1年でした。一時は、ワクチン接種が進み減少傾向となり、終息に向かうかと思いましたが、オミクロン株の発生もあり現在に至っております。

皆様もいろいろな役職を持たれており、事業を計画されていたことと思いますが、事業の縮小、中止、日程変更など大変な一年だったことと思います。早く普通の日常に戻れたらいいと思っております。

本日の第2回地域振興懇談会は、年度末での開催となりました。協議事項については、説明・報告、協議と合わせて5件です。皆様からは、令和3年度と令和4年度の事業等について、常日頃感じていることや考えていることなど、忌憚ないご意見をお聞かせいただき、良い懇談会になればと思っております。限られた時間ではありますが、よろしくをお願いします。

総務企画課長

続きまして、櫛引庁舎支所長よりご挨拶を申し上げます。

支所長

皆さん、どうもこんにちは。櫛引庁舎早坂でございます。

本日は公私ともにご多用のところ「第2回櫛引地域振興懇談会」にご参集を賜りまして、誠にありがとうございます。

ただ今の会長のご挨拶にありましたように、本来ならばこの懇談会をもう少し早めに開催して皆様のご意見が次の年の施策に反映できるような時期に出来ればと思っておりましたが、様々のコロナ等の対策に追われまして、開催が年度末に行われることに関しまして、お詫び申し上げます。

また、一昨日の宮城・福島地震ですが、最大震度6強ということではありますが、鶴岡市では震度4、櫛引が3.6であり、皆様方も大変驚かれたことと思います。我々も東日本大震災の再来かと感じましたが、幸いと言いますか、津波の方はそんなに被害がなく大事に至らず、大変良かったと思っております。地震につきましては、大きく二つ形がありまして、海溝型地震と内陸型地震がございます。俗に言われているのが海溝型は100年に一度。内陸型は1000年に一度大きな揺れが来ると言われています。ここ数年の傾向を見ますと海溝型は100年に一度

を待たずに50年ピッチで来たり、30年ピッチで来たり、今回は10年ピッチで来たという形になろうかと思えます。新潟県沖地震とこの間の山形県沖地震は大体50年置きの地震であります。やはり、世の中に気候変動がありまして、中々災害発生が読めないところでもあります。あの時も、庁舎の職員が駆けつけましたが榊引地域において、特に大きな被害がなかったところでもあります。ただ、今回の地震で亡くなられた方もおられましたので、この場をお借りしてご冥福をお祈りしたいと思います。

小林会長より、コロナ感染症についてご発言有りましたが、鶴岡市の全体感染状況について、感染者が2,500人前後になったと思えます。鶴岡市の人口割合にしますと、大体2%となりません。しかし、決して少ない数ではないと思っております。コロナ対策については、皆さんが嫌だと思ってくらい、マスコミ・新聞報道等で内容はご存じと思われまふ。現状で子供たちに感染症が広がっていて、榊引地域の小学校や保育園がある中でやはり感染拡大を阻止したいとの考えで、KCTを活用した注意喚起は、これからも続けて行きたいと思っております。

最後になりますが、来年度の話になります。新聞等でもご存じかと思えますが、令和4年度の本市一般会計の予算案につきまして、大枠で決まっております、鶴岡市全体の総額では717億7,300万円と、今年度の当初予算からは2.2%の増となります。

榊引地域は、まちづくり未来事業だけ申し上げれば、20,372,000円の予算措置の予定です。前年比で見ますとほぼ同額であります。伸び率ですと3.6%となり、市の伸び率より若干大きいのかなと思えます。この内容については、後ほど各課長よりご説明申し上げますが、私の方から3つだけお願いさせていただきます。

一つは、生涯学習センターの耐震改修工事が今の予定ですが、令和4年に設計、令和5年には改修工事を終えまして、令和6年度から耐震改修を終えた生涯学習センターが出来ればと思っております。これと合わせて、広域コミュニティの組織化を行いたく、今年度区長会において勉強会を開催していただきました。我々の願いとして広域コミュニティの一本化は、榊引地域の課題と思っております。令和6年度に向けて、どの様な形が良いのか広域コミュニティ一本化への議論を行っていただきと思えます。防災面・高齢者活動のところを中心に、これまでは21地区の自治会で出来ていたことがこれからは出来なってくるだろうという予測の基に、こういった形のコミュニティ化を目指すべきかであります。

二つ目にフルーツの里プロジェクトです。これまでも継続して取り組んでおります、まちづくり未来事業の一つでございます。今年度の5月には降雹被害が有りまして、今回ご参加いただいている馬場さんのお力もありまして、くしびきえくぼフルーツフェアを開催して、ブランド化が少し世間に広がってきたのかなと思えます。我々の目標は、忙しい農家さん、生産者さんの仕事を増やすのではなく、今行っている生産活動に付加価値を付けることにより生産高・売上高の向上を目指したいと思っております。その他、アルケッチャーノさんにお邪魔したときに榊引産のフルーツジュースとあり、商品タイトルに「榊引産」と付けて販売しておりました。何かするにしても、「榊引産」と付けていただけるだけで、ブランド価値が上がると思っております。

三点目に榊引地域における歴史文化の継承と活用と思っております。今年度は、昨年引続き表に向けた黒川能を披露する場を提供できなかった訳ですが、やはりこれを未来に繋げて行きたいと思っております。そのためには、横綱柏戸没25年になり、来年度予算に柏戸記念館にわずかながら予算が付いております。そういったことを基軸に観光業務にさらに力を入れて行ければと思っております。それがやがて、黒川能・丸岡城跡に繋がり、朝日の即身仏、それから黄金の

金峰山など、鶴岡市の南地域の観光発展・振興に繋がって行ければと思っております。

この三つを本日ご参加された皆様の頭の片隅に置いていただければと思います。

最後になりますが、今年度「ふるさとづくり大賞」を本日ご参加されております本間与一さんの宝谷地区が受賞されました。この場をお借りしましてお祝いの言葉を差し上げたいと思ます。

少し長くなりましたが、委員の皆さんから日頃お考えのことや、地域活性化に向けたご提言など忌憚なくご発言いただければと思います。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

総務企画課長

それでは、3. 説明・報告事項に入りたいと思います。

ここからは、地域振興懇談会設置要綱第6条の規定により、議長として小林会長より進行を務めていただきたいと思います。

よろしくお願いいたします。

会長

それでは、ここから私が進行させていただきます。委員の皆様からは忌憚のないご意見をいただいて、良い懇談会にさせていただければと思います。進行は大変不慣れでありますので、皆様にはご迷惑をかけるかもしれませんが、よろしくお願いいたします。

それでは、(1) 鶴岡市国土利用計画(第二次)について(資料1)

(2) 令和4年度櫛引庁舎重点施策について(資料2)

(3) 櫛引地域デマンド交通の利用状況について(資料3)

の説明・報告を一括してよろしくお願いいたします。

—各資料のとおり各担当が説明—

会長

(1)(2)と(3)について説明ありましたが、皆さんから何かご意見等ありませんか。また、後ほどの協議においても重なる所もあると思いますので、協議の説明を聞いてから再度ご意見をいただければと思います。

それでは、協議の(1) 櫛引地域まちづくり未来事業について(資料4)

(2) 広域コミュニティ組織の検討について(資料5)

をそれぞれ説明していただきたいと思います。

—資料4について各担当が説明—

会長

ただ今の説明で、先ほどの説明・報告も踏まえて皆様よりご意見をいただきます。意見がございましたらご発言をお願いします。

説明のあった鶴岡市南部エリア観光収容ルート魅力発信事業について、予算が0円となっているがどういった事業を行うのでしょうか。

支所長

櫛引観光協会ともお話をしているところですが、今後どのように展開して行くか話し合いをしている段階です。これから櫛引・朝日の観光協会同士で具体的な話し合いを進めて行きたい構想ですが、総務企画課長からの説明にあったようにすでに新潟や秋田より観光バスは来ていますし、庄交さんも新聞等でご存じのとおり各近郊自治体とマイクロツーリズムの都市協定を結んでいます。

このチャンスを生かしながら、構想を将来に向けて展開して行くということです。将来構想の南部広域に関しては、これから具体的にして行くために、今、予算は付いていないということです。ただ、具体的なプロジェクトについては、柏戸記念館の整備などポイントに、予算は付けているという状況です。

会長

これまで支所長が温めてきたものがやっと始まったということですか。

支所長

温まりすぎたところもありますが・・・。

櫛引観光協会からもご意見をいただいた方が良くと思います。

A委員

今年度、近隣の朝日地域と協議したいと思っており、R112沿いの観光に関する事で企画はしたのですが、残念ながらコロナ禍で開催できなかったのです。

その際、支所長さんからいろんな意見を聞かせていただき、市においてもいろいろ検討して行くとのことでしたので大変こちらも期待しているところであります。

中々、地元の人たちが地元の魅力についてわからないところがあり、地元から何を発信できるのか分かっていないと出来ない事かなと思います。

朝日との関係を一番作りたかったのが、朝日から見た櫛引はどうなのだろう。櫛引から見た朝日はどうなのだろうと言うように、外からの意見を聞くということが私は重要だと思っている。それで何かヒントがあれば、それをうまくつなぎ合わせてルート作りなり観光なり対外的に発信できるものが出来るかなと思い、企画したところです。

新年度には黄金地区も含めていますが、一気に広くすると訳が分からなくなるのではないかと思います。一歩ずつ進めてもらえたら観光協会としても参加しながらやって行きたいと考えており、予算もぜひ付けていただければと思います。

会長

B委員は、どうですか。

B委員

私もそれについて、大変期待していたのですが、コロナ禍で出来なかったのは、非常に残念と思っています。

我々の知らない観光の物、土地、場所と、朝日地域には、平泉・藤原氏に関わりのある阿部頼

時(カトリ)・貞任(サトリ)親子の物が残っている。それと大平地区は、全て阿部家で、阿部氏が逃げてきたところであり、阿部氏と繋がりがある。それから、武藤家との繋がり尾浦橋という名称があります。そうゆう風にして歴史的なものの関わり、もちろん即身仏もそうですが、それと朝日という自然の魅力。この二つは欠かせないものと思う。

寺社仏閣に関しても、即身仏が非常に多く残っている地域であり、日本全国的にも非常に特徴的な所だと言われているのです。そういった中で、櫛引と朝日を繋げるものとは何かとなるとライフラインとしての六十里越街道だと思うのです。六十里越街道と山添地域から入って行く幹線街道をもう少し形、可視化して行くことで相当観光的な要素が含まれていると思われる。同時に春・秋の山菜、赤川に関する川魚など発想すると色々なことが生まれてくる。もちろんフルーツなどもそうですが、朝日に入ると山の物のフルーツ。今年は、残念ながら月山ワインがあれになってしまいましたが、これがヤマブドウの商品化についても、まだまだ残っていると思っています。やり方次第では、売れ筋の物がまだまだあると思います。

そういう意味で、櫛引観光協会とそこのところを深く話をしながら、櫛引と朝日というのは、自然形体の中でも非常に近いと思う、おそらく羽黒よりも近いと思う。そういった意味でも提携し合いながら、お互いに話し合って良さを見つけ合いながら一つの物を作り上げて行く良いチャンスでないかと思う。そういう意味では、来年度当たり予算化できればと思う。

会長

ありがとうございました。

他に皆さんから何かございませんか。

C委員

観光のQRコードを活用しての案内ガイドというのは、とても良いことだと思います。

ちょっと管内なのか市内なのか分かりませんが、全て統一してあればとても楽しく観光して見ただけなのでないかと思っています。

一つ予算化して考えていただきたいのがありまして、今はコロナ過でインバウンドが少なくなっていますが、リベンジ消費的に2年後・3年後位には、海外からの旅行者が増えると想定されますので、ぜひ、黒川能とか丸岡城跡以外にも、多言語化の案内標記とかリーフレットの準備をしていただければと思います。

会長

今のことに對して、何か答えはありませんか。

総務企画課長

C委員からのQRコード等の取組についてですが、一部丸岡城跡については、酒井家庄内入部400年記念実行委員会の方で観光ガイドのHPにリンクするQRコードを付けるということで予定しております。それは、パンフレットに連動するという形で予定しておりますし、一部音声ガイドについても、試験的に行うということで、取り組みを進めています。ただ、どこのHPへ飛ぶとかということで一気に進むというものではないのですが、今現在始めているということです。

看板についても、看板に記載されている情報だけでなく、QRコードを掲載してそれを読み取り、もっと深い情報を探れるような取組を行っていきます。

C委員の発言についても、インバウンドがコロナの関係で入国規制されている訳ですが、王祇会館等には、令和元年頃やその前には相当のアジアやヨーロッパ系を含めインバウンド観光で出羽三山からのルートで訪れていたことがありましたので、将来に向けて英訳パンフレットについては、来年度作ろうということで進めております。柏戸記念館などもと欲張ってはいたのですが、予算の関係もありまして限定しての作成となっております。

C委員

QRコードで読み取った先のガイドも多言語化されているのでしょうか。

支所長

令和4年度に予算化されている黒川能の王祇会館と丸岡城跡につきましては、一昨年度の官公庁のモデル事業として、パンフレットの多言語化から始まっています。この二つにつきましては、現時点ではパンフ・看板の施設紹介のみ多言語化の予定ですが、将来的にQRコードで読み取った先の展示物のガイドも多言語化を検討してまいりたいと思います。

ただ、総務企画課長が説明したように、櫛引管内の他の部分について予算要求を行ったのですが、今回予算が付いたのは2ヶ所でした。我々としては、もっと頑張っていきながらもっと増やして行きたい考えてます。

C委員のおっしゃるとおり、外国の観光客が行った先々のガイドが日本語だけですと理解できず意味不明となりますので、我々も注視していきたいと思っております。

後、看板のデザイン統一化ということもご指摘のとおりでして、これは長年鶴岡市全体でしてきた部分であり、やはり観光案内・観光看板は統一化すべきであろうということでやってきました。

道路標示の看板に関しては、鶴岡市はあまり気づかないかもしれませんが茶色系統で観光施設はご案内するように統一としてやれるものから行っています。ただ、個別の施設看板となると、中々統一出来ず、一番ご存じかと思いますが、例えば羽黒山に行けば木目調のデザインにQRコードを書いてあるとか、あれは県で設置したのですが、松ヶ岡に行けば結構デザイン化されたものとか、様々な施設によってそこまでは統一化出来ないものと考えております。観光で往来された方々にとっては、これが観光施設だよと一目でわかるような看板の設置は今後の課題でありまして、鶴岡市で取り組んでまいります。これから一つひとつ増やしていきたいと思っております。

会長

他に何かありませんか。

D委員

くしびきフルーツ振興プロジェクトというものがありますが、事業の3本柱はまさにその通りだと思います。

私の家も販売はしていないが、果樹は作っており、自家消費や親せきに配るなどしております。果樹そのもの見てくれは決して良いものではない。ただ、自画自賛する訳ではないがあなた

の家の物はおいしいですよねと言われます。

このプロジェクトで、産地PRとかブランド価値向上とか言葉として取り上げられているが、その中で何をやるのかということを考えれば、この中に品種増量生産とあります。ですが、逆に言うと、例えば、熊本県には柑橘系の「不知火」がありますが、形も非常に変わった形ですし、名前も漢字だからとっつきにくい感じがしますが、実際は品質の部分、糖度これ以上についてはこの名前を使いますよと。人口が段々減ってきている中で、大量に生産を上げて所得を倍増しようというのは非常に厳しい世界なので、出来ればあまり広げないで、多少見た目が悪くても品質は揃えるようなことで、行政だけでは到底済まない話ではありますが、そういった方向を考えてやるということを行ってはどうかと思えます。例えば、庄内柿（平種無し柿）に関しても色々ところで作っている訳ですが、宮城県にはないのでその方に送っているのですが、非常に糖度があるねと言われる。

先ほどアルケッチャーノさんで二次的部分において、確かに収益を上げているとのことですが、当然そういうことも必要だと思います。そういったところで、ブランド力に何が必要かとなると、味の部分で出来る方向性を行うことだと思う。そこの売り上げを左右するのは口だと思いますので、味を重視することに方向転換するのは、なかなか難しい事ではありますが、そういったところの指導も兼ねながら行ってもらいたいと、勝手な思いではありますが・・・。

産業建設課長

これまで開催されました会議の中で、あぐりさんから、農家さんの中でも品質の上下にかなりばらつきがあつて、対応に苦慮している、やはり、技術を向上しないといけないとお話がありました。そこから、櫛引としての品質を伸ばしていかないと判断しました。そのことから、1・2回技術的な研修会を開いてすぐ向上するということではないので、二次的に名前を売るにしても、そちらの方も大事にして行かないといけないと思っています。

支所長

例えば、あぐりさんとGAP認定を取っているので、そういうのを売りにしていくのが、おっしゃっていたことにつながり、強みになると思います。

D委員

あぐりさんから買った物は、品質が良いとなればさらに利用者が増えるのでないかと思う。

支所長

その辺についてはまた反映させていきたいと思えます。

会長

他に皆さんからごさいませんか。

Eさんは何かありませんか。

E委員

特にありませんが、宝谷のそばのことについては分かりますが、果樹は、宝谷地区に無いもの

で分かりません。

会長

果樹だけでなく、そばのことではどうですか。

B委員

お聞きして良いですか。「でわ宝」で地域おこしプロジェクトにそばの通販について記載有りますが、今現在どのような状況なのか、どのような構想を練っているのかをお聞きしたい。

E委員

通信販売については、行っていないが、産直にそば粉を使った商品の販売を行っている。かりんとうとかそば粉そのものなどを並べてはいる。もっと手を広げて、通販でやってはどうかと話があって、ある業者と一度お話をしたのですが、いざ通販で行うと、とんでもないお金が掛かることが分かり、さらに Yahoo や Amazon に加入する・登録だけでも何十万円と掛かるとのことでそんなにお金をかけても年間数万円の収入のためにする意味があるのか、投資金額を回収するために何十年掛かるのかで、今現在は踏み込んで話をしていない。

現在、そばの乾麺を作って売り出そうという考えもある。乾麺だったらふるさと納税の返納品や贈答用として使用できるようになれば、通販について考えるようになるかもしれない。通販を始めるのは、予想以上の見積り金額で驚いている状況です。

B委員

分かりました。やはりそういった地域の独自性を生かし切れていない原因は色々あるじゃないですか。そこを追求しながら地域の振興を図るために行政からそういったところに目を付けていただき、支援いただけるのであればありがたいと思う。そういった地域振興の進め方もあるのではないかと思う。食もそうですし、文化的にもそうですし、先ほどの多言語化もそうですし。

黒川能も観光庁からお話が入ってきたことから、私たちがぜひやりたかったものですから多言語化を行った訳ですが、向こうさんが行ってくれるのは多言語に変化してくれるまでであり、文章化はしますが、それを活用するのはあなた方をお願いします。その後、あなた方はそれをどのように活用しましたかと問われるものですから、それで、行政にお願いして行うのですが、どうしても、歴史文化的な方に偏ってしまうので、もっとすそ野を広げて行かないといけないと思っています。

例えば、フルーツで梨刈りなどできますよとか、りんご刈りなどできますよ、みたいな所などのパンフレットにも多言語化は必要だろうし、いろんな意味でのPRするところで観光化との繋がり、観光との多言語化をやっていかないといけない。

世界文化的なものとなるとヨーロッパは文化的なものに行くのですが、アジア系は食文化に行く、文化的なものには物見遊山的なものとなる。やはり、世界のいろいろな人たちのニーズに合わせることで開発をこれからはして行かないといけないと思いますので、行政が主体となっただけ、広い意味でのPRできる部分と開発できる部分の手助けをしていただくとありがたいと思っています。

F委員

柏戸記念館について、観光客を呼ぶようなことを行った場合、現在は無人ですので、説明する方が常時おりません。事前連絡で産業建設課にお願いして時間を合わせることもできますが、それ以外はもし電話がきても、櫛引スポーツセンターから産業建設課に連絡して対応していただくなどで、アナログ部分が足りていないと思います。毎日は無理なら、毎週何曜日はガイドさんがいるとか、そういうところがあれば、もう少し進むのかなと思います。

櫛引デマンド交通についてですが、一度乗ってみれば使いやすかったとの感触がでるのかなと思います。利用しようと思ったが、1回400円掛かるのでというハードルがあるので利用しないというのであれば、あと一步なので、1回利用してみる機会があれば、地区利用者0名の所も、利用しやすいの～となれば、次回の利用になるのではないかと思います。

支所長

そのデマンド交通についてですが、庄内交通さんのゴールドパスという仕組みがございまして、1ヶ月2,550円で何ができるかと言いますと、庄内管内の庄内交通のバス乗り放題になるうえに、デマンド交通も乗り放題になるのです。我々もそれをもっとPRするようにとお話しているのですが・・・。

F委員

今日の資料にはなかったですが、前回に資料でいただいているものですよ。内容を見ますと庄内全域で利用できるということですよ。そうすると、片道400円、往復で800円ですから、月に3回以上利用すれば元を取れるということで、高齢者が出かけるときに、誰かにお願いして、連れて行ってもらうよりは、精神的負担が抜けるとすごく使いやすいという気持ちが生まれると思います。

支所長

我々もそのことについて、もっとPRして行きたいと思います。私も免許証を返納したらすぐ買います。

F委員

ちょっと気になったことが、これは免許証を返納した方だけではないですよ。

総務企画課長

庄内交通さんのゴールドパスについて、免許証を返納者の他に年齢制限もあります。

F委員

その標記について、もう少し砕いた表現で分かりやすくしていただければいいかなと思います。ゴールドパスって、いったいなんだなやというところから始まると思いますので・・・。

会長

だいぶ時間も経ちましたので、一度休憩を取りたいと思いますが・・・。

C委員

すいません。これに関することでもう一つ、観光と子育て支援関係だと思っておりますが、トイレに、オムツ替え出来る台の設置をお願いしたいと前々から思っていました。

生涯学習センターの改修の際にも、計画されているかとは思いますが、現在は来客用トイレに無いのでオムツ替え出来る台の設置をお願いしたいと思います。

支所長
検討します。

【注釈】会議後に確認したところ、生涯学習センターで、先月、多目的トイレにおむつ替え台を設置済みとのこと

会長

他に、何かありませんか。無いということで、ここで5分ほど休憩を取り、その後、次の協議について開催したいと思います、

会長

それでは、再開します。

(2) 広域コミュニティ組織の検討についての説明をお願いします。

—資料5について担当者が説明—

会長

はい、説明ありがとうございました。支所長より何か補足することがありますか。

支所長

補足します、P13をご覧くださいと思います。ただ今、担当よりご説明がありました、基本的に平成28年度櫛引での検討結果として、中学校単位一つによる広域コミュニティとすることと設置時期の具体的な目標年度は設定しないということが当時の結論でございます。

現在の第2期鶴岡市地域コミュニティ推進計画にも載っております。ただ、経過として、先ほどの説明にもありましたが、それまでの経過が分からない区長さん達がおりますことと目標年度を定めないことでもいいのですが、ある程度目安を定めないといつまで経ってもこのままになってしまいますので、令和3年度区長会の勉強会を開催したという流れです。

P13には、そのことについて記載してあります。では、広域コミュニティの一本化についてはいいのですが、実際その中で何をしていくのかが問題でして、その一つが防災です。

防災について、現在の櫛引地域の指定避難場所が小学校単位にあります。東・南については、小学校、西については、小学校・中学校・生涯学習センターを含みます。ブロック単位で、3つが指定避難所となっています。例えば、今回の地震で、震度4でしたが、鶴岡地域に震度6とか5強が来ますと、櫛引地域のどこもそうだと思いますが各地区の公民館を避難所に想定していると思うのです。ポイント的災害の場合、公民館で充分なのですが、広域的大規模な災害が発生したとなりますと、指定避難所に避難しないと避難生活が送れないとなります。つまり、避難する側は命を守るということが当然一番ですが、救援する側は、例えば櫛引に21ヶ所の避難場所が

あると、とても全ての避難場所の救援が出来ないとなります。そういったことで、今の個別の防災についても取組が十分必要ですが、大きな3地区において、指定避難所毎の防災組織が必要だろうということで、櫛引地域には広域防災組織を3つ作った方が良かった訳です。

次に一本化した方が良いというのが福祉分野です。これについては、井上委員の専門分野だと思いますが、福祉分野も現在は、21地区にあり、自治会により規模に大小があります。アンケートを取ったところ、今は自立できているが、将来的に不安があるとか、後すでに自立できていないというところは何ヵ所かありました。そういった将来的な人口減少や少子高齢化の社会を考えて行きますと、福祉分野では、現在行っている活動を何ヵ所かまとめて行った方が良いのではないかとすることがすでに出始めているということです。そういった意味を考えれば、合同で事業が出来るような福祉部局の一本化というのがあった方が良かったということです。我々が耳にするのは、櫛引のスポーツ大会もそうです。すごく色々な球技や大会もあって、素晴らしいと思うのですが、いざ、自治会に入っていきますと選手を出されない、人がいないといった問題があるのでそういうものも合同でやって行けたらいいのではないかと、そういった問題があります。

今後、令和6年度までの2カ年の間で、どういった分野を一本化して行くのかについて、皆さんから議論していただきたいと思います。組織として、今の予定では生涯学習センター内に広域コミュニティの事務局を併設する形を考えています。その辺を踏まえた、突っ込んだ議論をしていただきたいと思っております。

会長

支所長より補足説明していただきました。ここには、平成29年2月に報告書を提出した時に委員だった方もおられます。私はこのことについては、提出時から今日まで時間が止まったように感じています。その間、少子高齢化もありますが、各家庭の家族構成が変わってきています。一人世帯なども増えてきています。役員のなり手がいないなども含め、状況に大きな変化が起きています。区長会では、一部の集落からは継続することが難しい状況になってきているとの報告もあったことから、勉強会を始めていきたいと思いますということになりました。

支所長からお話があったように、生涯学習センターはありますが、広域コミュニティがないことで、福祉分野と防災が抜け落ちています。近年は、自然災害等が発生しています。各集落には自主防災組織はありますが、単独の防災組織では対応できません。

区長会では地域の安心安全を早急に最優先に考えることとなり、まずは、防災組織についての勉強から始めた経緯があります。但し、話し合いをするだけでは前に進みませんので、市の主導でタイムスケジュールを組んで、いつまでにはここまで進めましょうということが出てきたのが、P13の内容です。

できれば、もう少し前倒ししてもいいと思いますが、急いでも良いものがないかもしれません。修正を加えながら進めさせていただければありがたいと思っております。

来週と再来週に各地区において総会が開催されます。区長会では、総会で説明することと、役員の交代があった場合には、引継ぎをすることにしています。皆さんからは今日説明のあったことに対して、ご質問やご意見いただき更に検討を進めていきたいと思っておりますので、忌憚のないご発言をお願いいたします。

D委員

先ほど支所長さんよりご説明ありましたように、自主防災組織を一応3つにしましたとのこと。その拠点となるのが小学校単位とすることに対して、私は非常に良いことだと思います。

何年前かに、櫛引地域に大雨は降りまして氾濫する可能性がありますとなった時、自分の地区でも大変心配になった時に、地区で準備をしようとした時にあれがないこれがないとなり、今までそういったことがなく慣れていないから仕方がないかもしれませんが、そのように、近くにきちんとこのような施設があり災害用の物品が配備されることは、大変良いことだと思います。

やはり、一か所だと遠くから来るのも大変だと思うし、民生委員会の理事会においても出た話題なのですが、昨年か一昨年に鶴岡市内においても避難してくださいとのことで、避難場所は、第2コミセンでしたが、人数が違うものですから、あっという間に満杯になってしまい、どこに行けばよいのかとなると、学校はキャパが広くて受け入れられるので、そういった面では、非常に良いのかなと感じました。今後そのような拠点として整備していただき、毛布とか災害時の備えがあれば非常に安心なのかなと思います。

3つに分ける、結果的に4つですが、そう言った部分でどこか一杯になってもこっちに行けま
すよとなれば非常に良く機能するのかなと思います。

会長

いつ来るかわからない災害に備えておくのは当然で、緊急の課題です。今までなかったのが不思議なくらいです。

他にご意見はありませんか。

A委員

元々、鶴岡市がそれを望んでいた、提示してきた形に近づいてきたのかなと思いますが、実際、現状を変えとなると、今の防災に関しても東西南の一応3つに大きく振り分けるという形になる訳ですけれども、地形と立地条件で違うと思うのです。

当然、西地区ですと割と平坦地でありますのでその辺の所と、黒川地区となりますと中山間が入ってくるので、その辺の防災の拠点施設が1ヵ所で良いのかということがなきにしもあらずということで、災害によっても当然違ってくる訳です。そういう場合の対応と、今現在の各集落の体制との関連性みたいなものが当然なければならない。地域の住民の把握について、やはり地域の人が一番よく知っているところがあって、その辺のやり方について、大変細かい部分までを果たしてこれでやって行けるのかと一番心配されるところでないのかなと思います。その辺の対応をこの話し合いで解決して行こうということだと思いますけれども、十分配慮して進めてもらいたいと思います。

支所長

今、A委員がおっしゃられたとおりです。実は、鶴岡地域でも同じ状況で、指定避難所は、各学区・地区でありまして、コミセン・学校の体育館が指定避難所です。でも、各町内会は自分たちの公民館などに逃げるとい訓練をしています。そこはおっしゃるとおりで、その災害の種類によって違って良いと思います。例を取ると、山形県沖地震において、鶴岡市内の方はコミセンに逃げる方はいなかったのです。開設しているところがなかったからです。でも、海岸部では津

波に備えちゃんとマニュアル通りに学校などの指定避難所に逃げたのです。これは理想的なパターンです。

そこは、判断があるがその取り決めは、A委員のおっしゃるとおり災害の種類や種別によって、ある程度の人数などルール化しておけばよいのかなと思います。そこまでやっているところは中々少ないのですが、実際は、おっしゃっているとおりのご指摘なので、そこは今後詰めて行く上で、こういう場合は公民館。こういう場合は指定避難所としないといけないと思います。

今回、馬渡地区において、防災計画を作っているが、その辺もそういう区別があるようになっております。

会長

他に、こういうこと考えてはどうかとか、ありませんか。

B委員

3.11の時に私自身豊浦中学校にいたものですが、豊浦中学校で避難訓練を行う時に三瀬の地域が割と狭いので、地域の人たちが一緒に行っているのです。常に訓練を行う時は、中学校のグラウンドに集まっているとのことでそこまでは良かったのですが、3.11の時に避難させていただきますと市の方からあったものですから、そのようなマニュアルがあるのか尋ねたら、そのようなものは何もないとのことでした。その時、学校というところは、すごいなと感じたのが、体育館の天井が大丈夫なら体育館そのものを避難所として活用して、フロアをどうするかということで、体育で使用するマットや柔道などで使用する畳を使用する。視聴覚で使用するテレビをそこに持ってくる。暖房用のストーブなども持ち込めるものを持ち込んだりして、最低限の準備は簡単にできると思った。海沿いだったので、10数名の方が避難してきたが、後は寒くないような状況だったのですが、学校というのはそういう意味でもすぐ動ける部分があるところだなとすごく感じる事が出来ました。

後、先ほどお話にあった、榎引地域の自然環境と住居環境を考えたとき、穨代と宝谷地区とその下の地区の方たち全部にすぐ東小学校に集まれとするのは、逆に宝谷と穨代はかえって危ないと感じます。そういった環境を見つめながら一か所に集まる。ただし、集まる場所は出来るだけ広い所、現在ある物でも広い建物でないと共用はできないのは間違いないと考えられます。

支所長

今おっしゃった通りだと思います。宝谷とか穨代とかの住民が降りてきて東小に逃げるかとなると、現実的にはあり得ないのでないかと考えます。そこについて、避難所の変更とかは十分あり得ることなのですが、基本はこの3つをベースにして、それぞれにマッチングしたものを考えて行くことが一番良いのかなと思います。

会長

他にありませんか。

災害によって、さまざま違いますが、土地柄もありまして、西部地区は赤川の氾濫等々もすごく気になる所ですし、宝谷や穨代地区においては、地滑りなど長雨による影響もあります。さらに、コロナ禍により避難所自体を広く取りなさいとのことで、前に市の方から各自治公民館にお

いて何人ぐらい収容できるか調査が来た経過があります。

それらを含めて、いろいろなお話をさせていただいて少しずつ成案にして行く。そういう作業がこれからは必要なのではないかなと思いますので、いろいろな機会にお話をさせていただければありがたいなと思っています。

支所長

私の方から、P10について皆様からご意見をお聞きしたい部分がありまして、例えば今後、広域コミュニティ化になった場合、ここには櫛引生涯学習振興会の体制が記載されていますが、いろいろな協議会や団体名が書いてありますが、今後、場合によっては、櫛引広域コミュニティの何々部と変わっていく可能性があるのです。ですから、今は独立した協会や団体ではありますが、将来的にはコミセンの組織化に属するとなることを想定した場合、どういった部ができそうで、どういったところが統合に問題があるかなど、ご意見をいただければ、今後の組織化の参考になるのかなと思いますのでお願いします。

例えば、副会長は婦人会関係の全てに関わっていて、今度コミセンの婦人部になるのか、団体や独立している組織のままの方が良いとか、様々お考えがあらうかと思いますが・・・。

副会長

ほとんどは、部で活動しておると思いますので、適材適所で配置したら良いのではないかと思います。各支部においても何々協会や何々婦人会でなく、適材適所で何々部としてする方が活動しやすいのかなと思います。責任とかありますので思い切って活動できるのは、部組織の方がやりやすいのかなと思います。

会長

広域コミュニティができるとH29・2の時にも話題になった自治公民館に対する補助金は確実に無くなる訳で、そういうことも含めてこの補助金は広域コミュニティにまわって、助成いただいた以上にこんなメリットがあるという、そういう話をして行くことだと思います。

支所長

そのところについて、総務企画課長より説明していただきます。

総務企画課長

広域コミュニティ組織の設立について、時期を定めないとしたH29・2の報告の中で小林会長よりお話ありました点が一番ネックになっております、公民館類似施設運営・活動費補助金がありますが、R3実績で2,650,000円。これは世帯規模によって違いますが、10万円～30万円が各集落に交付されております。これは、広域コミュニティ組織がない地域、温海と櫛引地域にある補助金となります。これが無くなるのは、うまくないとのことで、当時、H29・2の結論の時は、無くなること以上の別のメリットについての話までいかなかったという経緯があり、明確な設立時期は定めないとしたというものであります。

今も各集落の自治公民館に交付されている一番小さい集落でも10万円、下山添あたりですと30万円となりますが、その部分の削除が大きなネックになったものと思います。

支所長

今の説明は、P11の公民館類似施設運営・活動費補助金ですが、先ほど会長がおっしゃっていましたが、広域コミュニティ組織になりますと櫛引地域にある公民館の補助金がなくなります。ただし、その下の、広域コミュニティ組織運営・地域づくり交付金となり、交付金額はここに記載のとおり2,650,000円を下回らない。つまり、櫛引全体にこの交付金が来ます。ですから、櫛引全体の出入りを考えますと損はないとなります。しかし、使い方の制約として、今までは各自治会の公民館毎に割り振られていたものが、今度は、広域コミュニティ組織の事業費として振り込まれるので、配分の仕方についてある意味で言い方を変えれば裁量性が高まるということと、各自治単位で言えば、コミセンの方からすべて支配されるということと、致し方ない事かもしれませんが、結果的には、これまでの交付金額を下回らないような形になっております。ただ、実際の事業費に充てて下さい。こういった問題・課題もあるということでもあります。

副会長

今の話ですと、直接地区の公民館には恩恵みたいのが無くなると考えてよろしいですよ。広域コミュニティで一括して使うということはそういうことで、たとえば、地区の公民館から、地区でこういうことをやりたいので、予算をこの位いただけないかというのは可能か。

支所長

それは、可能です。実際、鶴岡地域も総合交付金という形になってきますので、各自治会単位での割り振りは出来ます。ですから、言い換えれば今までとおりも可能ということです。

そうになっているよね？。

総務企画専門員

副会長さんのおっしゃったことは、コミセンから公民館に補助金が出るのかということですよ。

副会長

そうです。コミセンには一括して入る訳ですよ。そこから各自治会において、事業をやりたいので予算化できるか、出せるものなのかとの確認なのですが。

総務企画専門員

そのことについて、現在鶴岡市において前例がなく、あくまで広域コミュニティ組織なので広域で行う事業の活動費として使用していただくものです。例えば、地区でこういった事業をやりたいとした時、全地域で行うという風に、発想を変えていただきたい。

副会長

地区のみの活動に対しては支出できないということですか。

そのところが一番気になる所だと思います。今までネックになってきたところですので。

支所長

そのことについて、確認してみます。

会長

どうして公民館への補助金が無くなるのがネックになるのですか。

副会長

前に審議会で補助金が無くなるとなり、不安になった。

会長

公民館助成金は、各公民館に出ていました。但し、各公民館はこのほかに地区からの予算と合わせて事業予算を組んで事業を行っていたと思います。助成金が無くなった場合には、地区に入る総合交付金と各地区の自治会費の中で自治会と公民館とが調整し予算を組むことになると思います。

支所長

敬老会費について、以前は町ごと補助金が入っていたが、現在は地区の交付金に一本化になっていますよね。

市民福祉課長

従来の敬老会補助金相当額が、今は各地区の総合交付金の中に加算されて含まれています。ただし、敬老会費分という内訳で算定はされていません。

会長

以前は、櫛引地域全体として直接敬老会の補助金交付金に来ていた。今は地区人数に合わせて総合交付金として自治会に直接交付するようになったことから、櫛引地域全体の敬老会を開催するときに事業費がないので、その交付金からお金をいただいて、まとめることで開催していた。そのことについて、各集落からお話を聞くとそれでは問題があるとなって、コロナ禍でもあるが開催できなくなっている。

支所長

その割り振りは、櫛引に割り振って、ここにはコミュニティがないことから各集落に交付するようになったのでないのか。

市民福祉課長

広域コミュニティがないことから、以前は実行委員会組織を作り、それに補助金という形で一本化されてきた。

支所長

総合交付金について、確認してもらいましたので、市民福祉課長補佐より説明してもらいます。

市民福祉課長補佐

コミセンに行く広域コミュニティ組織運営・地域づくり交付金を財源にして、各町内会の事業に使うということは想定していないが、そのコミセン自体が各町内会からも会費をもらって運営しているので、そのトータルの中から各地区の事業に支出する例はあるということでした。ただ、町内会について総合交付金で各地区に行っていることから、地区の事業はそれを使ってくださいというスタンスです。

会長

他にありませんか。

A委員

私の集落は非常に小さい集落ですが、若い人たちが、集会などで公民館に来ないという問題があります。これが、広域になったらどうなるのか不安があります。それこそ誰も行かなくなるのが現実化するのかなと思います。これが大変心配される場所ですが、これについて、どのように考えているのか。

支所長

その問題は確かに出てくると思います。鶴岡地域に同じような問題があると考えていいと思います。各町内会でも事業を行っておりまして、コミセンでも事業を行っている。鶴岡を見ると、住民が参加するのは各町内会の事業が多いです。コミセンの事業というのは、ある程度特異性のある事業を行っておりまして、例えば運動会などは小学校の運動会に町内会が参画して行い、コミセンは何々講座など特異性のあることをコミセン単位で行っている。それに興味のある方が参加しているというのが実態です。

A委員がおっしゃるとおり、今まで櫛引は公民館があつて、広域コミセンが無かったのですから、その様な心配は出てくるのかなと思います。

A委員

ますます拍車がかかるのかなと思います。それだけでなく参加しなくなっていることからそういう気がしています。

会長

そのような方も出てくるかもしれません。ただ、このままでいても、地区、地域に対する帰属意識の希薄化は進んでいくと思います。これと一緒に行事、事業の見直しや組織体制、役員体制の見直しも行い、持続可能な組織にしていくことだと思えます。

A委員

特に、神社関係や芸術文化の継承、特に黒川能など特にそうだと思いますが、小さい神社など天狗舞などは大変苦勞してしまして、若手が中々育たない、声をかけてもなかなか参加しない。今は、社会情勢もなかなか厳しいことから、ほとんど出てこなくなっている。仕事の関係もあるかもしれませんが、そういう中でこの現状での広域化を行ったら、ますます忘れ去られるの

でないかというところが懸念されるところです。

会長

他にありませんか。

予定の時間になりましたが、この議論はこれからも続いていきます。まずは、防災、福祉を先行させ、少し穏やかに広域コミュニティ組織について進めて行きたいと思えます。

今日は皆様方よりいろいろなご意見をいただきました。これだけは言っておきたいことがありましたらお願いします。

E委員

宝谷地区からこの場を借りてお礼を申したいのですが、支所長のあいさつでお話をしておりましたが、令和3年度ふるさとづくり大賞でふるさと宝谷村を対象に2月14日に身に余る賞をいただきました。これも、行政からの支援がありまして、このような賞をいただけたということで本当にどうもありがとうございました。

内容は知っていると思いますが、宝谷地区は、山と今は雪がいっぱい、自然しかない所で、わずか25世帯の小集落で、今住んでいる方は、こんな良い宝谷から出たくない、永く住みたいということで過疎化地域でありながらも地区民が一体となって頑張っているところです。

コメは減反政策で作れないということで、そばを作り始めて25年くらい経ちました。その後段々作付面積も広くなり収穫も大きくなり、そばを核として地区民が一体となり活動してきた。それにより地域活性化にも繋がり、そばがあることにより住民の雇用の場があり、また様々なイベント、事業関係をやって、宝谷地区は行き止まりの集落で先には集落が無い。本当に用事が無い限り山には上ってこない集落。それがそば屋開いてそばに関するイベントがやることによっていろんな人が宝谷に上ってくる。来てもらった。年間5,000人位、すごく地域活性化に繋がった。そういったことの内容を今回申請して認めてもらった賞で、非常にありがたい賞をいただいた。みなさんから協力してもらっていただくことが出来た賞です。ありがとうございました。

会長

今、栽培面積は？

E委員

今33ヘクタール位で、米半分、そば半分 前は60ヘクタール位米ばかりだったが、いま半分半分今後は逆転してもっと増えるかなと思っている。

支所長

圃場整備入ってもらおうのでは。

E委員

来年あたりから 米の方ですが。

会長

それでは私の仕事を終えたいと思います。お返しします。

総務企画課長

会長進行ありがとうございました。その他では特別用意しているものはありません。閉会の前に早坂支所長から改めてごあいさつを申し上げます。

支所長

皆さま今日は慎重審議ありがとうございました。私だけ次が確定しておりまして、退職しますが、支所長1年で何も出来なくて皆さんにご迷惑ばかりで迷走させてしまったという反省点でございます。

今日の課題というのは、これからにつながる課題ということで小林会長と一緒にコミュニティの一本化の道筋だけは付けたのかなど、この先どうなるかわかりませんが、これが議論できたのは良かったと思っています。あともう一点は、デマンドを走らせることが出来たということで良かったかなと思います。最後の一点はゆ〜Townの件です。私はこの1年度と産健課長1年で産健課長のとき、ポンプ落下してしまい8割がゆ〜Townの仕事でした。今回も冒頭で来年度のまちづくりが2,300万という予算だが、気づいた方いるかと思いますが、温泉の来年度の予算が8,700万で、となりのぼんぼの話題も出ていますが、生き死にかけての勝負を市民福祉課長が頑張っています。地域の皆さんも来年以降も支えていただきたい。お願いの言葉で御礼の言葉にかえさせていただきます。1年間ありがとうございました。

総務企画課長

これをもちまして令和3年度第2回櫛引地域振興懇談会を終わらせていただきます。ありがとうございました。

終了 16時05分